

## 若手研究者コラムリレー

### 田中 愛 (たなか あい)



#### プロフィール

明星大学教育学部 准教授  
日本体育学会の専門領域: 体育哲学

和歌山県生まれ  
2002年千葉大学教育学部 卒業  
2008年東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科修了 博士(教育学)  
大学院修了後、武蔵大学人文学部を経て現職  
現在、日本体育学会「若手の会」世話人の1人です。  
好きな国はデンマークです。

E-mail: ai.tanaka@meisei-u.ac.jp



#### わたしの研究

##### 身体が育つとはどういうことかを皆で考えたい。

私の研究目的のひとつに「体育授業に消極的である児童・生徒・学生、あるいはいわゆる『体育嫌い』への実践的アプローチ」があります。この問題意識については大学生の頃から現在に至るまで一貫して持ち続けており、この問題に応え得る体育教材を模索してきました。今後も引き続き、理論と実践の両面から研究を継続したいと思っています。また、この問題を考えるにあたり、「どうして身体を育てなければならないか?」「身体が育つとはどういうことか?」についても同時に考えなければなりません。これは体育哲学領域の面白さでもあると思います。

理論的な側面からは、「運動・スポーツを実践するための意欲と『身体的可能感』の関係」について(「身体的可能感」は筆者の造語ですが)、フッサー現象学の「キネステーゼ」および「私ができる」という表現を参考にしながら考察し、「できる」という感覚がどのようにもたらされるかを明らかにしたいと考えています。

実践の一例としては、「ユニバーサルスポーツの教材化」についても継続して取り組んでいるところです。現在特に焦点を当てているシッティングバレーボールについては、パラリンピック教育の一環という位置づけの下、体験授業が実施されている現状がありますが、体育教材としても十分に価値を有するものであると考えています。その意義・価値を明確化し、発達段階に応じた目的・内容を提示したいと思っています。(授業で行ったシッティングハンドボールの写真を右の「なんでも帳」に掲載させていただきました。)

#### わたしの渾身の論文・書籍・記事

田中愛(2016)「スポーツ身体論の現象学的考察:アダプテッド・スポーツ実践に生じる「意味」としての身体に着目して」日本体育・スポーツ哲学会, 38巻1号pp.37-50

必読

#### (なんでも帳)

あと2週間弱で誕生日を迎えます。その日をもって、数値で表される「若手」ではなくなるのですが、この「若手の会」は自称若手もOKのことですので、これからもいち会員として参加させていただければ嬉しいです。

今年から所属が変わりました。未開封段ボールが積んである新しい研究室からは、晴れた日には富士山がはっきりと見えます(※都内)。そのサイズ感と言ったら…予想外の大きさに毎日驚いています。

写真左:ユニバーサルスポーツ

写真右:デンマーク「森の幼稚園」(園舎はズバリ「森」! 雨の日以外は一日中「森」で活動します。その教育的効果については…ご想像通り! 子どもは「外で遊ぶ」が一番の仕事ですよ。



○次回のコラムリレーは東海学園大学「木村香織」さんを予定しています。

#### 日本体育学会若手の会からのお知らせ

2018年8月に日本体育学会若手の会が発足しました!  
→メーリングリスト登録フォーム:

<https://goo.gl/forms/zGMPdPa5fY3kcB5q2>

学会大会、研究会等の開催や報告者募集に関する案内、公募や助成金情報等に関する情報提供を配信予定です。皆様からも、メーリングリストで周知したい情報がありましたら、下記までご連絡ください。

[taiikugakkaiwakate@gmail.com](mailto:taiikugakkaiwakate@gmail.com) (担当: 木村、田中)

